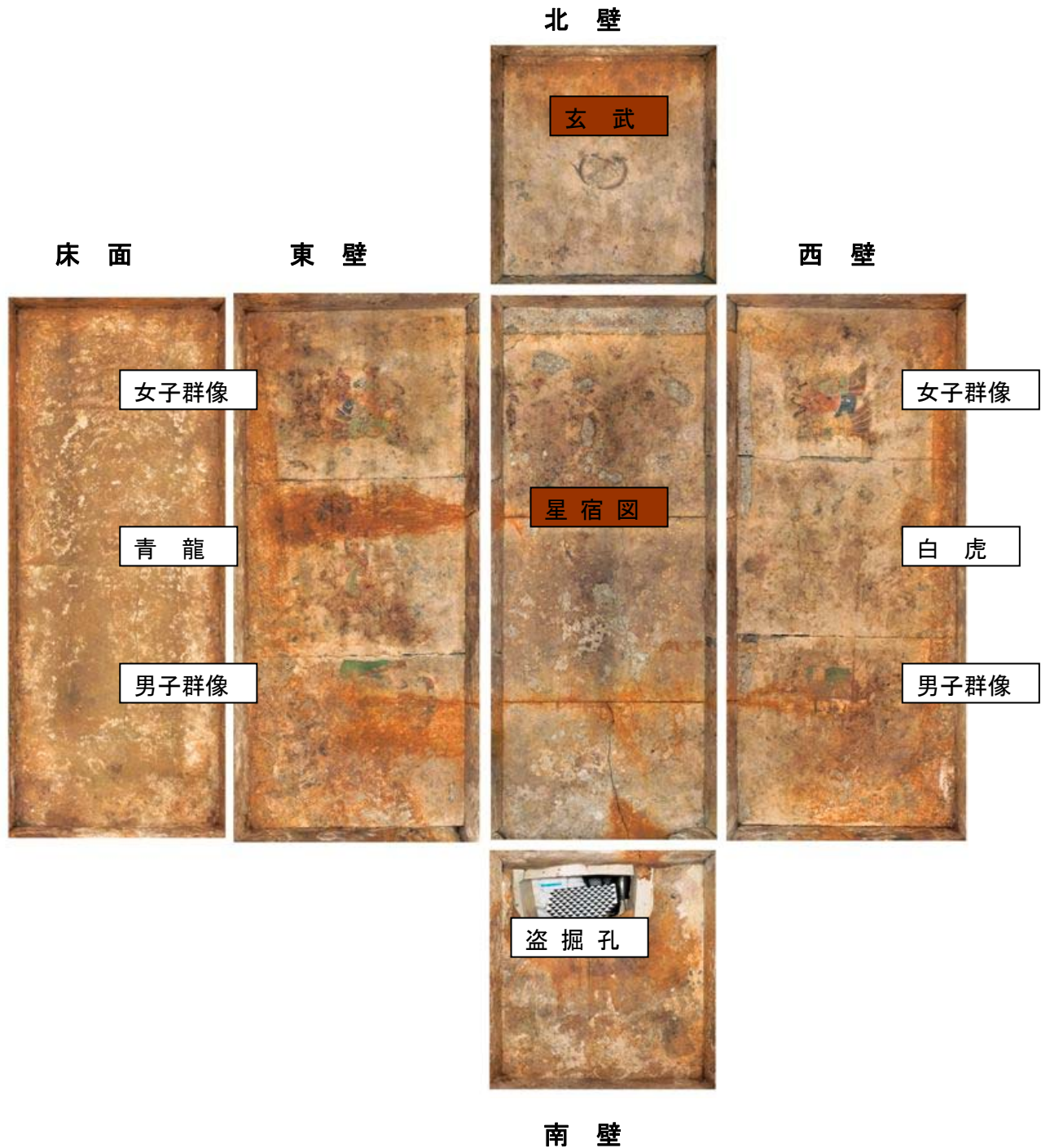


高松塚古墳及びキトラ古墳の対比表

	高松塚古墳（特別史跡）	キトラ古墳（特別史跡）
所在地	奈良県高市郡明日香村大字平田字高松 4 4 4	奈良県高市郡明日香村阿部山字ウエヤマ
発見	昭和 47 年 3 月 明日香村及び橿原考古学研究所の発掘調査にて我が国初めての極彩色の古墳壁画を発見	昭和 58 年 11 月 ファイバースコープ調査で北壁に玄武を確認
指定	昭和 48 年 4 月 古墳を特別史跡 昭和 49 年 4 月 壁画を国宝 〃 出土品を重要文化財	平成 12 年 7 月 史跡指定 平成 12 年 11 月 特別史跡
古墳の大きさ	下段直径 23m、上段直径 17.7mの二段築成の円墳	下段直径 13.8m、上段直径 9.4mの二段築成の円墳
石室内の内法	奥行 265 cm、横幅 103 cm、高さ 113 cmの石室	奥行 240 cm、横幅 104 cm、高さ 124 cmの石室
石室の構成	天井石 4、北壁石 1、南壁石（閉塞石） 1、東壁石 3、西壁石 3、床石 4 の 16 枚の凝灰岩の切石を組み立てた横口式石室	天井石 4、北壁石 2、南壁石（閉塞石） 1、東壁石 4、西壁石 3、床石 4 の 18 枚の凝灰岩の切石を組み立てた横口式石室
古墳の築造	7 世紀末から 8 世紀初め頃	7 世紀末から 8 世紀初め頃
壁画	漆喰地に描かれた星辰（星宿）図、日月像及び四神図（朱雀はなし）、人物群像（女子群像、男子群像）（国宝）	漆喰地に描かれた天文図（東アジア最古の現存例）、四神図（玄武、白虎、青龍、朱雀全てが現存）、人身獣首の十二支像
出土品	棺関係遺物、海獣葡萄鏡、刀装具、玉類ほか（重要文化財）	棺関係遺物、金象嵌鉄製刀装具片、玉類ほか
保存手法	石室を取り出して解体修理（平成 17 年 6 月方針決定） （発見当初は現地保存方針）	壁画を剥ぎ取って保存（平成 16 年 9 月方針決定）

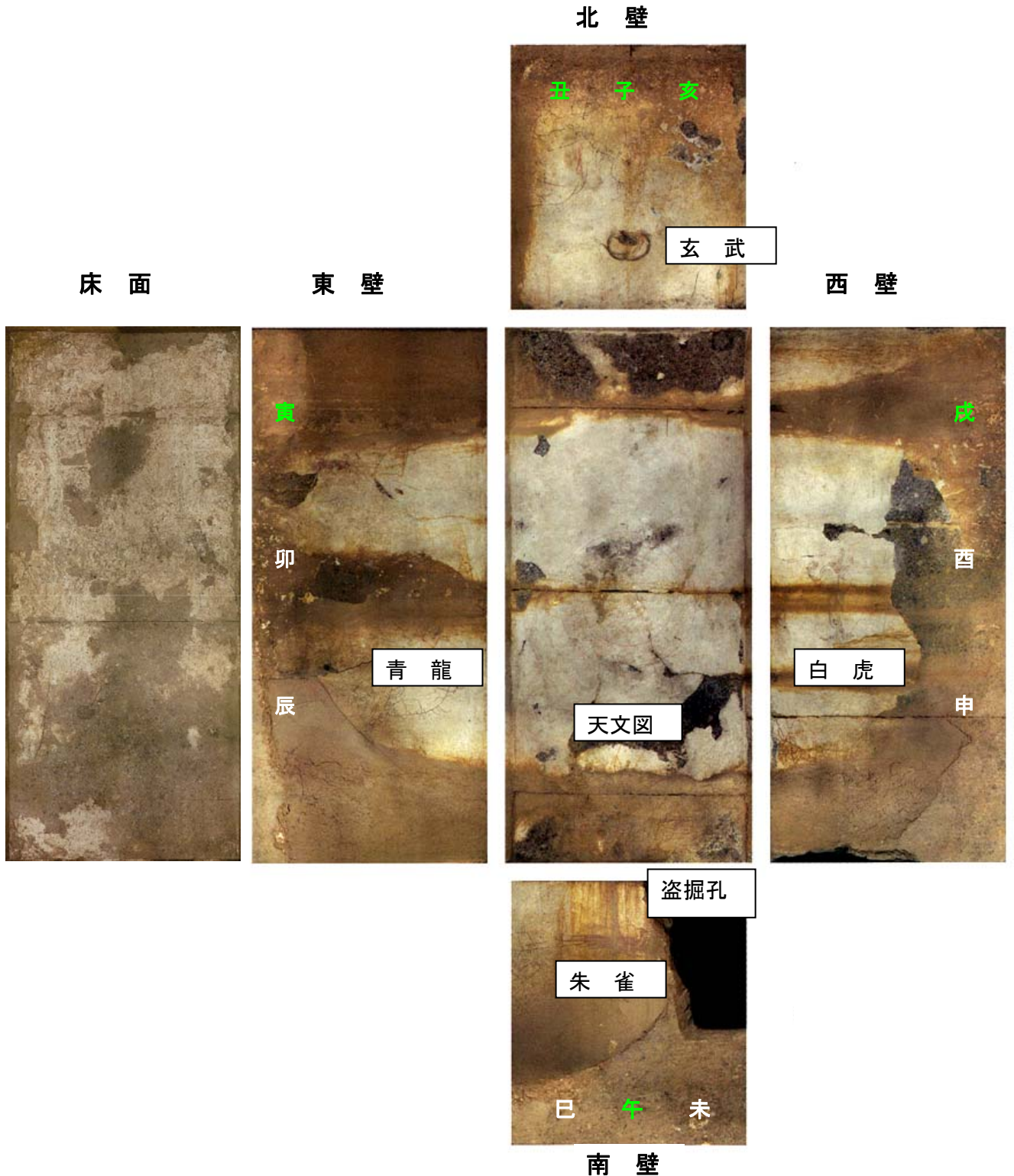
高松塚古墳壁画の石室内配置（石室展開図）



* 本図は天井を中心に石室を展開したものである。このため北壁壁画の天地、東西壁の位置が逆転している。

* 奈良文化財研究所撮影のフォトマップに基づき作成した。

キトラ古墳壁画の石室内配置（石室展開図）



* 本図は天井を中心に石室を展開したものである。このため北壁壁画の天地、東西壁の位置が逆転している。

* 十二支像のうち確認されているものを緑色で示した。

* 奈良文化財研究所撮影のフォトマップに、基づき作成した。